

# ラトビア月報

【2014年9月】



2014年（平成26年）10月発行  
在ラトビア日本国大使館  
<http://www.lv.emb-japan.go.jp/>

## 主な内容

### 【政治】

- ・ロシア人に対するラトビア居住許可付与禁止に向けた動き（P. 1）

### 【経済】

- ・リエパーヤ・メタルーグス社の売却先が決定（P. 2）
- ・ツィタデレ銀行の売却先が決定（P. 2）

### 【外交】

- ・ベルズィンシュ大統領のエストニア訪問（P. 5）
- ・ベルズィンシュ大統領のNATOウェールズ首脳会合出席（P. 5）
- ・ベルズィンシュ大統領の訪米（P. 5）

### 【日本との関係】

- ・神戸市長のラトビア訪問（P. 11）

※「ラトビア月報」は、ラトビアにおける政治・経済状況等について、ラトビア政府発表や各種報道等の公開資料を取りまとめたもので、在ラトビア日本大使館の見解を述べたものではありません。月別の時事情報として御参照いただければ幸いです。

## —政治—

### 【今月の注目記事】

#### ◆ロシア人に対するラトビア居住許可付与禁止に向けた動き

9月18日、国会は、右派政党「ナショナル・アライアンス」が提案していた、ロシア国籍者に対して投資（不動産の購入）による5年間のラトビア居住許可の付与を一時的に禁止する移民法改正案を否決した。

「ナショナル・アライアンス」は11日にも同趣旨の法案を提出し、否決されている。16日、ストラウユマ首相は本件に関し、「（ラトビアは）ロシア政権の行動を理由にロシア人を隔離するようなことはしない。ロシア人への居住許可付与禁止はウクライナ情勢の解決にはならない」と述べていた。

その後、10月2日、（与党）「統一」及び「緑と農民連合」は、投資により居住許可を与えることが国の安全保障上の脅威になり得るかどうかを議論する必要があるとして、国会の委員会に同法案を審査するよう求める「ナショナル・アライアンス」の提案を支持した。

#### ◆ピエバルグス欧州委員が「統一」に入党

9月15日、「統一」は幹部会において、ピエバルグス欧州委員会委員の入党を全会一致で決定した。ピエバルグス氏は、欧州委員の任期終了後（10月末）、ラトビアの政治に関与するために同党への入党を望んでいた。ストラウユマ首相は同氏が次期首相になることに対して肯定的なコメントを発表した。

#### ◆アフリカ豚コレラ感染拡大に伴う非常事態宣言の拡大及び延長

9月23日、ラトビア政府は、アフリカ豚コレラの感染拡大が引き続き報告されていることに鑑み、リガ近郊のインチュカルンス、リーガトネ、オーグレなど新たに17の区域に非常事態宣言を発出した。また、10月1日まで発出していたその他の地域における非常事態宣言の期限を2015年1月1日まで延長することを決定した。

#### ◆ロシアの禁輸措置に苦しむ企業に納税期限を延期

9月18日、国会は、ロシアの禁輸措置により経営が悪化した企業に対し、税金を最大5年間延納・分納することが可能となる法案を採択した。同法は、禁輸措置の対象となった商品のロシアへの輸出総額が全売上額の1割以上を占める企業に適用される。

#### ◆リエルパールデ軍用空港の運用再開

9月25日、NATOの補助金により改修されたリエルパールデ軍用空港（リガの南東約50キロ）が再開され、ベーヨニス国防相が式典に出席した。同空港はソ連時代に

空軍基地として建設されたが、ソ連軍撤退後は十分なメンテナンスが行われていなかった。

#### ◆税制変更は暦年1回まで

9月30日、政府は、税制変更は暦年に1回までとする法案を閣議決定した。同法の目的は税制の安定化と予測可能性の確保。ここ数年間、頻繁に税制が変更され、ビジネスプランが立てられないと企業からの批判が相次いでいた。

#### ◆政党支持率—10月4日の国会選挙を控えた9月末の世論調査

9月27日～29日に民間調査会社「Latvijas Fakti」が約1,000人の住民を対象に実施した結果が以下の通り発表された。（「もし明日選挙があるとしたらどの政党に投票するか」との問いに対する回答で、括弧内は9月12日～22日に行われた調査の結果）

その後、10月4日に行われた国会選挙では連立与党3党（「統一」、「緑と農民連合」、「ナショナル・アライアンス」）が100議席中61議席を獲得して勝利した。

「調和」（最大野党：親露系）	: 17.4% (18.7%)
「統一」（連立与党の中心：中道右派）	: 13.0% (11.8%)
「緑と農民連合」（連立与党：中道右派）	: 10.5% (7.6%)
「心からラトビアのために」（新党：左派）	: 9.9% (7.3%)
「ナショナル・アライアンス」（連立与党：右派）	: 8.3% (6.9%)
「ラトビア地域連合」（新党：右派）	: 3.6%
<hr/>	
（支持政党を決めていない）	: 20.3% (22.0%)
（投票に行くつもりはない）	: 11.2% (16.4%)

## — 経済 —

### 【今月の注目記事】

#### ◆リエパーヤ・メタルーグス社の売却先が決定

9月9日報道によると、昨年11月に経営破綻した製鉄会社「リエパーヤ・メタルーグス」の入札の結果、ウクライナの「KVV Group」社に売却されることが決定された。リエパーヤ・メタルーグス社によると、売却額は1億700万ユーロで、2014年中にも生産作業を再開できるとしている。

#### ◆ツィタデレ銀行の売却先が決定

(1) 米国の投資ファンド「Ripplewood Holdings」に売却

9月16日報道によると、ラトビア政府は、ツィタデレ (Citadele) 銀行の政府保有株式を、米国の投資ファンド「Ripplewood Holdings」に売却することを決定した。本件に関しストラウユマ首相は、「ラトビアにおける米国のビジネスは、ラトビアの安全保障上大変重要である」と述べている。

7月末、ラトビア政府は同ファンドに対して、政府保有株式を1億1300万ユーロ以上で購入するかどうか検討するよう要請していた。現在、ツィタデレ銀行の株式はラトビア政府が75%を、欧州復興開発銀行が25%を保有しているが、今後は25%をRipplewood Holdingsが保有し、残りの50%は米国の投資家グループに売却されることとなった。

同銀行の売却先候補の一人として、1979年から87年まで米国連邦準備制度理事会の議長を務めたPaul Volcker氏の名前が挙がっているが、政府は本件について現段階ではコメントしていない。

#### (2) 「調和」がツィタデレ銀行売却に対する抗議集会を実施

9月28日、親露系最大野党「調和」は、リガ旧市街中心のドーム広場で、ラトビア政府が株式の75%を保有するツィタデレ (Citadele) 銀行の売却を決定したことに反対する抗議集会を行い、約300名が参加した。参加者は「統一（与党の中心政党）＝汚職」、「統一は金を盗んだ——教員、看護師、警察官の給与から」などと書かれたポスターを掲げていた。

リガ市議会のステパネンコ議員は、ツィタデレ銀行は、身元不明の買手に対して、不明な条件の下、低価格で売却されるとして抗議した。また、同議員と共に演壇に登ったウシャコウス・リガ市長は、10月4日に行われる国政選挙に参加し、そして現政権を支持しないよう呼びかけた。

#### (3) 政府保有株の売却価格は7400万ユーロ

9月30日、ストラウユマ首相はテレビ番組のインタビューで、ツィタデレ銀行の全株式の資産価値は9867万ユーロであると述べた。ラトビア政府は同銀行の株式の75%を保有しているため、7400万ユーロ相当で売却することとなる。ストラウユマ首相は、投資家との契約締結後、2015年3月までに支払が行われると述べた。

### ◆国際競争力ランキングでラトビアは42位

9月3日にスイスの研究機関「世界経済会議 (WEF)」が発表した2014年版の国際競争力ランキングで、ラトビアは昨年より順位を10上げ42位となった。日本は昨年より3つ順位を上げて6位であった。その他のバルト三国では、エストニアが29位、リトアニアが41位。

### ◆8月のインフレ率は0.8%

9月8日報道によると、2014年8月の物価上昇率は対前年同期比0.8%であっ

た（物品価格は0.1%下落，サービス価格は3.2%上昇）。過去12か月間の平均物価上昇率（対前年同期比）は0.3%。対前月比インフレ率は-0.6%で，物品価格は0.9%下落，サービス価格は0.1%上昇した。

#### ◆「豊かな生活」に必要な月給は1,055ユーロ

9月8日報道によると，調査会社SKDSが今年7月に行った世論調査で，回答者が望む「ラトビアで豊かな生活をするために必要な給与」は月額1,055ユーロであるとの結果が明らかになった。同様の調査は定期的に行われており，2000年の調査結果は494ユーロ，昨年の調査結果は980ユーロであった（2014年第2四半期のラトビアの平均給与は月額762ユーロ）。

#### ◆ロシアの禁輸制裁の影響を受けた32社が減税を要請

9月12日報道によると，ロシアによる食品禁輸措置の影響を受けたとして，ラトビア企業32社が政府に減税措置の適用を要請した。今回減税を要請した企業は，食品，輸送，物流，小売，木材など幅広い分野にわたる。

ラトビア政府は8月12日に，制裁対象となっている財の対ロシア輸出が全売上の10%以上を占める企業や，これらの企業に原料を供給する企業等に対する支援措置を導入している。

#### ◆ロシアのチョコレート製造大手がベンツピルスに進出

9月17日にレンベルグス・ベンツピルス市長が明らかにしたところによると，ロシアのチョコレート製造大手「Pobeda」は，2015年，ラトビア北西部の港湾都市ベンツピルスにチョコレート製造工場を建設する。同社はEU構造基金から250万ユーロを得て，ベンツピルス港湾公社が同工場建設予定地を提供することとなっている。

#### ◆ラトビア中央銀行が2014年のGDP成長率予測を下方修正

9月26日報道によると，ラトビア中央銀行は，2014年のGDP成長率予測値を当初の3.3%から2.9%に下方修正した。今回の修正は，西側諸国とロシアとの関係悪化やさらなる制裁の可能性に対する懸念などが原因とされている。

#### ◆第2四半期のGDP成長率は2.3%

9月30日報道によると，ラトビア中央統計局は，2014年第2四半期の名目GDPは59億ユーロで，前年同期比で2.3%増加したと発表した。特に成長が著しかったのは，建設（前年同期比15.8%増，特に住宅建設が67%増加），小売（同4.3%増）などの部門。

## — 外交 —

### 【今月の注目記事】

#### ◆ベルズィンシュ大統領のエストニア訪問（9月3日）

9月3日、ベルズィンシュ大統領はエストニアを訪問（リンケービッチ外相同行）し、イルヴェス・エストニア大統領及びグリボウスカ ITE・リトアニア大統領と共にオバマ米国大統領と会談した。会談ではNATOの枠組みにおけるバルト三国の安全保障、NATOウェールズ首脳会合、環大西洋貿易投資パートナーシップ（TTIP：EU・米国FTA）、エネルギー問題に関する欧米関係等に関して協議した。

オバマ大統領は、ロシアがNATO・ロシア間の合意を順守していないため、NATOがバルト三国を含む領域で集団的自衛権を行使するにあたり制限はないと指摘した上で、ポーランド及びエストニアに米国空軍を駐留させると述べた。また、オバマ大統領はロシアのプロパガンダによる影響を懸念しているとした上で、在リガ・NATO戦略的通信センターの設立に支持を表明した。

#### ◆ベルズィンシュ大統領のNATOウェールズ首脳会合出席（9月4日～5日）

9月4日～5日の間、ベルズィンシュ大統領（リンケービッチ外相、ベーヨニス国防相同行）はウェールズを訪問し、NATO首脳会合に出席した。同会合ではウクライナ情勢、イスラム過激派組織「イスラム国」、NATO拡大、アフガニスタンの国際治安支援部隊（ISAF）等に関して協議し、有事の際に最短2日で数千人規模の部隊を展開する「即応部隊」を新設する等、ロシアの脅威に対抗するための行動計画に合意した。

また、リンケービッチ外相はNATO加盟候補国（ボスニア・ヘルツェゴビナ、グルジア、マケドニア、モンテネグロ）のNATO加盟に向けたプロセスに支持を表明した。

#### ◆ベルズィンシュ大統領の訪米（9月22日～25日）

##### （1）ガス生産・エネルギー運輸関連企業との懇談

9月22日、ベルズィンシュ大統領は米国テキサス州ヒューストンを訪れ、米国のガス生産及び運輸関連の大規模企業経営者らと懇談した。同会合でベルズィンシュ大統領は、バルト三国は1つの供給国（ロシア）に100%依存しており、こういった状況はヨーロッパを高いリスクにさらしたこと、またラトビアにはインチュカルンス・ガス貯蔵施設があり、欧州委員会の支援を受けたバルト地域のLNGターミナルの建設場所選定にあたって有利であることなどを説明した。

##### （2）国連サミット出席

23日、ベルズィンシュ大統領はニューヨークで行われた国連気候サミットに出席し、住民の福祉のために競争力を強化する経済政策と気候変動への影響の均衡をとらなければならないと演説した。

また同日、ベルズィンシュ大統領はガリバシヴィリ・グルジア首相と会談し、11月に予定されているベルズィンシュ大統領のグルジア訪問等について協議した。その後、クリントン前米国国務長官とウクライナ情勢、バルト三国の安全保障等について協議した。

### **(3) 国連総会開会式出席**

24日、ニューヨークにおいて、ベルズィンシュ大統領は第69回国連総会の開会式に出席した。同日、ベルズィンシュ大統領はイヴァノフ・マケドニア大統領、ニコリッチ・セルビア大統領、ヤツェニューク・ウクライナ首相、エルドアン・トルコ首相とも会談した。

### **(4) 国連総会における一般討論演説**

25日、ベルズィンシュ大統領は第69回国連総会において一般討論演説を行い、ロシアのクリミア併合を名指しで批判し、ロシアに対して自国の武装勢力をウクライナから直ちに撤退させるよう求めた。また、ラトビアは国連の常任理事国・非常任理事国の拡大を支持すること、ラトビアは2015年から17年までの国連人権理事会の理事国に立候補し、様々な人権問題に対処していく意思があることなどを述べた。この他、中東和平・アフリカ情勢、ラトビアのEU議長国時の優先課題等についても触れた。

## **◆リガNATO戦略的通信研究センターの設立承認**

9月1日、NATO理事会は、リガNATO戦略的通信研究センター(NATO Center of Excellence for Strategic Communications)の設立を承認した。同センターはNATO加盟国とNATO軍に対し、戦略的通信部門への支援を提供するものであり、今後、NATOの軍事演習に参加する予定。

## **◆リンケービッチ外相のモルドバ訪問(9月1日)**

9月1日、リンケービッチ外相はモルドバを訪問し、モルドバのEU加盟を支持する非公式EU大臣グループ会合に出席した。EU各国外相はEU・モルドバ連合協定の具体的な履行方法に関して協議した。リンケービッチ外相はモルドバに対し、司法制度改善、言論の自由の保障、汚職撲滅等を行うよう促した。

## **◆NATOウクライナ信託基金に5万ユーロを拠出**

9月2日、ラトビア政府はNATOのウクライナ信託基金に5万ユーロを拠出することを決定した。ラトビア政府はこれまでに、ウクライナ危機における負傷者の治療支援等を行っている。

## **◆在アラブ首長国連邦ラトビア大使館での業務開始**

9月1日、在UAEラトビア大使館での業務が開始された。現時点では、同館は在U

A E デンマーク大使館の建物の中に置かれている。

#### ◆NATO陸空軍共同軍事演習「Steadfast Javelin II」の実施

9月2日～10日の間、ドイツ、ポーランド、バルト三国において、NATO加盟国9か国の2000名以上の部隊員が参加する陸空軍共同軍事演習「Steadfast Javelin II」が実施された。同演習の主な目的はNATO加盟国間の協力強化や軍部隊の計画改善等。

#### ◆ウシャコウス・リガ市長の訪露（9月4日～6日）

9月4日～6日の間、ウシャコウス・リガ市長はロシアを訪問し、4日、ドヴォルコヴィッチ副首相と会談した。ドヴォルコヴィッチ副首相は、ロシアの対欧米禁輸の対象となっていないラトビア産品（魚の缶詰、菓子類、パンなど）の輸出を支援し、モスクワの小売チェーンでの販売を約束した。

5日、ウシャコウス市長はラトビアの食料品が販売されている大型スーパー「アーリエ・パルサー」を訪問し、ロシアの禁輸により商品の少なくなったラトビア食品コーナー「リガの中庭」でリガの宣伝を行うことに関して協議した。

さらに6日、メドヴェージェフ首相、キリル1世・ロシア正教総主教、マトヴィエンコ連邦院（上院）議長、ソビヤーニン・モスクワ市長とも会談し、経済関係や文化交流等について協議した。

#### ◆ストラウユマ首相の訪英（9月5日～7日）

9月5日～7日の間、ストラウユマ首相は英国を訪問し、英国在住のラトビア人企業家と会談し、英国在住のラトビア人団体が開催したイベント等に出席した。また、ラトビア大使館の新領事部の開所式に出席した。

#### ◆ホイヤー欧州投資銀行（EIB）総裁の来訪（9月8日～9日）

9月8日～9日の間、ホイヤーEIB総裁がラトビアを訪問し、8日、ベルズィンシュ大統領と会談した。会談ではEIBのラトビアにおける実績、ラトビアのEU議長国時の優先課題、ウクライナ情勢等に関して協議した。

9日、ホイヤー総裁はストラウユマ首相と会談し、ウクライナ情勢や欧州及びラトビアの経済情勢等に関して協議した。

#### ◆ドンブロウスキス欧州議員が欧州委員会副委員長に

9月10日、ユンカー次期欧州委員会委員長は、ドンブロウスキス・ラトビア出身欧州議員（前首相）を次期欧州委員会副委員長（通貨、社会対話担当）に指名した。同人は7人の副委員長のうちの1人となる。



#### ◆ウシャコウス・リガ市長の訪米（９月８日～１１日）

９月８日～１１日の間、ウシャコウス「調和センター」党首（リガ市長）は米国を訪問し、米国の専門家らとロシア語系住民等を焦点としたラトビア情勢、NATOの安全保障政策、ウクライナ情勢、環大西洋貿易投資パートナーシップ等について協議した。また、ウシャコウス党首は人権、少数民族に関する円卓会議に参加した。今回、ウシャコウス党首はリガ市長としてではなく、「調和センター」党首として招待された。

#### ◆ブルカルテール・スイス大統領の来訪（９月１０日～１１日）

９月１０日～１１日の間、ブルカルテール・スイス大統領（兼外相、OSCE議長）はラトビアを訪問し、１１日、ベルズインシュ大統領、アーボルティニャ国会議長、ストラウユマ首相、リンケービッチ外相とそれぞれ会談した。会談では二国間関係、ウクライナ情勢、ラトビアのEU議長国時の優先課題等に関して協議した。

#### ◆リンケービッチ外相のエストニア訪問（９月１１日～１２日）

９月１１日～１２日の間、リンケービッチ外相はエストニアを訪問し、「NB8」（北欧・バルト三国）外相会合に出席した。各国外相は、地域協力、ウクライナ情勢、NATOサミットの結果、エネルギー安全保障等について協議した。また、ロシアに対し、５日にエストニア南東部において誘拐されたエストニア治安警察官を即時解放するよう求める共同声明を採択した。

#### ◆リガ会議の開催

９月１２日～１３日の間、リガにて安全保障に関する年次国際フォーラム「リガ会議」（The Riga Conference 2014, 主催：Latvian Transatlantic Organization。今年で９回目）が開催された。本年の「リガ会議」では、ウクライナ情勢を踏まえた対露関係、欧州の安全保障、NATOの取組等を中心に議論された。同会議にはグリアOECD事務総長、ストラウユマ首相、ピエバルグス欧州委員会委員（ラトビア出身）、クビリュス前リトアニア首相等を含む30か国以上から420名以上の政府関係者、専門家、メディア関係者が出席した。出席者の主な発言内容は以下の通り。

##### （１）ストラウユマ首相

ウクライナ危機を背景に、NATOの新たな重要性が生まれた。自由と安全保障は、当然あるべきものと見なしてはならない。

##### （２）グリアOECD事務総長

OECDはラトビアから多くのことを学べる。ラトビアは経済危機により深刻な影響を受けたが、そこから再び立ち上がった経験を他国に伝えることができる。

##### （３）ペーヨニス・ラトビア国防相

ロシアは未だにバルト三国を含めた旧ソ連諸国に強い地政学的な関心を抱いている。NATOと米国のプレゼンスはバルト地域の安全保障にとって不可欠。米国は、EUの安全保障を深刻に受け止めていることを証明し、EUとバルト三国の元に戻ってきた。

#### ◆(4) ヌーランド米国国務省欧州・ユーラシア局長

NATOには旧メンバーも新メンバーもない。NATOにとって、タリン、リガ、ビリニユスを防衛することは、ベルリン、パリ、ロンドンを防衛することと同等に重要。

#### ◆グリアOECD事務総長のラトビア訪問

9月12日、グリアOECD事務総長はラトビアを訪問し、ベルズィンシュ大統領、ストラウユマ首相、リンケービッチ外相とそれぞれ会談した。会談ではラトビアのOECD加盟に向けたプロセス、国際情勢がラトビア経済に与える影響等について協議した。グリア事務総長は、順調にいけば2016年にラトビアはOECD加盟国になると述べた。

#### ◆ラトビア外務省はクリミア共和国の国会選挙を承認せず

9月15日、ラトビア外務省は、ロシアが14日に実施した「セバストーポリ市」及び「クリミア共和国」における議会選挙を強く非難し、その合法性を認めないとする声明を発表した。

#### ◆ラトビア軍の国際共同軍事演習参加

9月11日～28日にウクライナ西部において実施された国際共同軍事演習「Rapid Trident 2014」の一部にラトビア軍から5名が参加した。同演習には約15か国から1300名が参加しており、同演習の目的は他国軍部隊との協力強化、パトロール強化等。

#### ◆NATO即応部隊への人員派遣

9月16日報道によると、ベーヨニス国防相は、NATO即応部隊にラトビアから人員300名と船2隻を参加させる計画であることを明らかにした。9月初旬に行われたNATOウェールズ首脳会合では、加盟国7か国（英国、デンマーク、オランダ、ノルウェー、バルト三国）が、英国主導の即応部隊の設立趣意書に署名しており、数千名の人員から成る同部隊は必要に応じて数日間で展開できるとされている。

#### ◆ヴィクトリア・スウェーデン皇太子殿下の来訪（9月17日）

9月17日、ヴィクトリア・スウェーデン皇太子殿下はラトビアを訪問し、ベルズィンシュ大統領と会談した。両者は二国間関係、欧州文化首都（2014年はリガとスウェーデンのウメオ）、3月のカール16世グスタフ・スウェーデン国王夫妻のラトビア訪問等に関して意見交換した。また、ヴィクトリア皇太子殿下は欧州文化首都としての

リガに関心を示し、ラトビア国立図書館、KGB博物館等を訪問した。

#### ◆米国による装甲戦闘車部隊の派遣

9月18日報道によると、バルト三国の安全保障強化のため、米国は10月初旬にラトビアに対して戦車4台と装甲戦闘車12台を送る予定。これらの車両は、ラトビアに駐留している150名の米軍部隊により利用される予定。

#### ◆ベルズィンシュ大統領のバチカン訪問（9月19日～21日）

9月19日～21日の間、ベルズィンシュ大統領はバチカンを公式訪問し、フランシスコ法王、パロリン国務長官（首相）とそれぞれ会談した。両国は二国間関係、アグローナ（リガの南東約200キロ）で行われる聖母マリア被昇天祭、ラトビア人の国外移住問題等に関して意見交換した。ベルズィンシュ大統領はフランススコ法王及びパロリン国務長官を2015年にラトビアへ招待した。

#### ◆トーゴとの外交関係樹立

9月24日、リンケービッチ外相及びドゥッセイ・トーゴ外相が外交関係樹立のためのコミュニケに署名した。また、両国は国際機関の枠内における協力、ラトビアのEU議長国時のEU・アフリカ間の協力等について意見交換した。

#### ◆ベルズィンシュ大統領のポルトガル訪問（9月29日～10月1日）

9月29日～10月1日、ベルズィンシュ大統領はポルトガルのブラガを訪問し、第10回アライオロス・グループ会合（EU加盟国の元首による多国間非公式会合。参加国はイタリア、エストニア、オーストリア、スロベニア、ドイツ、ハンガリー、フィンランド、ブルガリア、ポーランド、ポルトガル、ラトビア）に出席した。ベルズィンシュ大統領は、29日、エネルギー及び移民等に関する本会議に、30日、研究・イノベーションに関する本会議に出席した。

#### ◆リンケービッチ外相のEU総務理事会出席（9月29日）

9月29日、リンケービッチ外相はブリュッセルを訪問し、EU総務理事会に出席した。EU各国外相は10月23日～24日に予定されている欧州理事会の準備、気候変動問題、成長・競争力・雇用創出、アドリア海・イオニア海周辺の開発等について協議した。

#### ◆共同軍事演習「Silver Arrow 2014」の実施

9月29日～10月6日の間、ラトビアのアーダジ（リガの北東約20キロ）において、共同軍事演習「Silver Arrow 2014」が実施された。これは去年ラトビアで共同軍

事演習「Steadfast Jazz」が実施された際に策定された作戦を実行に移す演習で、ラトビア、エストニア、米国、英国、ノルウェー、ギリシャから2,100名以上が参加した。

#### ◆ヘニス・オランダ国防相の来訪（9月30日）

9月30日、ヘニス・オランダ国防相はラトビアを訪問し、リンケービッチ外相、ペーヨニス国防相とそれぞれ会談した。会談ではNATOウェールズ首脳会合における決定事項の実行、二国間関係、EU・NATO等の枠内における関係強化の可能性、ラトビアのEU議長国時における優先課題等について意見交換した。

## —日本との関係—

### 【今月の注目記事】

#### ◆神戸市長のラトビア訪問（8月31日～9月3日）

8月31日～9月3日の間、久元喜造・神戸市長一行、安達和彦・神戸市会議長など総勢53名の訪問団が、リガ市と神戸市の姉妹都市提携40周年を記念してラトビアを訪問した。9月2日、久元神戸市長はウシャコウス・リガ市長と会談し、両市長は、リガ市庁舎で開催された神戸市展示会の開会式に出席した。同イベントでは、神戸市で生産された鞆、靴、玩具、食品などが9月12日まで展示された。3日、久元市長はブルブレフスキス・ラトビア・オリンピック委員会委員長と会談し、2020年の東京オリンピックに向けた協力について意見を交換した。

#### ◆ピルデゴビッチ外務次官の訪日（9月1日～3日）

9月1日～3日の間、ピルデゴビッチ外務次官が訪日した。2日、日本・ラトビア外務省間の政務協議（日本側議長は林欧州局長、ラトビア側議長はピルデゴビッチ外務次官）が行われ、二国間関係、日・EU関係、安全保障、地域問題等について協議された。ラトビア側は、日本との二重課税防止条約締結に関心を示し、ラトビアがEU議長国を務める2015年に安倍総理のラトビア訪問の可能性を検討して欲しいとの希望を述べた。

3日、ピルデゴビッチ外務次官は日本・ラトビア友好議員連盟会長を務める中曽根弘文参議院議員と会談した。会談では、二国間関係や地域問題等について協議し、要人往来を継続し、観光促進に力を入れることで合意した。

また、ピルデゴビッチ外務次官は、奥経団連副会長（EU・ジャパンフェスト日本委員会実行委員長、三井住友ファイナンシャルグループ会長）、齋木外務事務次官、石黒経済産業審議官とも会談した。

（以上ラトビア外務省プレス・リリースによるもの）

### ◆生け花・水墨画のデモンストレーションとワークショップの開催

9月4日から5日にかけて、池坊の山田みどり氏による生け花・水墨画のデモンストレーションとワークショップが、トゥクムス市の文化会館、リガ市のラトビア大学とコングレス・ホールでそれぞれ開催された（日本大使館主催）。

生け花デモンストレーションでは、山田みどり氏が生け花の技法や歴史等に関する解説を交えながら次々と完成させた作品で会場を魅了した。また、生け花、水墨画のワークショップでは、参加者は自らの手で日本の伝統文化に触れつつ、山田みどり氏の助言をもとに思い思いの作品を完成させていた。



生け花デモンストレーションの様子（トゥクムス市）



生け花デモンストレーションの様子（リガ市）



生け花ワークショップの様子（トゥクムス市）



水墨画ワークショップの様子（リガ市）

### ◆Inter-Academia 2014 国際会議の開催

9月10日から12日にかけて、リガ工科大学で Inter-Academia 2014 国際会議が開催された。同国際会議は、静岡大学のリーダーシップにより、中・東欧の協定大学が連携して開催されているもので、今年、リガ工科大学を幹事校としてリガで開催された。

9月10日に開催されたオープニングセレモニーでは、アルトゥルス・メドウィズ同国際会議組織委員長、リビツキス・リガ工科大学長、ユハナ・リガ工科大学副学長、木村静岡大学副学長ほか、多数の大学関係者が出席した。また、多賀大使がスピーチを行った。

#### ◆日本の企業経営者勉強会「向研会」のラトビア訪問

9月23日から24日にかけて、経営コンサルタントの大前研一氏が主宰する日本の企業経営者・個人事業主による勉強会「向研会」に所属する65社の代表者がラトビアを訪問し、23日、ラトビア政府主催のビジネス・フォーラムに出席した。同フォーラムにはストラウユマ首相、ドンブロウスキス経済相、オゾロス投資開発公社長官などが出席したほか、約20社のラトビア企業も参加した。

#### ◆御嶽山噴火災害に関してラトビア外務省が弔意を表明

9月30日、ラトビア外務省は、27日に発生した御嶽山の噴火により亡くなった方、行方不明になった方の親族に対して弔意を表明した。

#### ◆リガ市内に「露天風呂」が出現

9月30日から10月12日まで、リガ市中心部のエスプラナーデ広場に人工の露天風呂が設置される。利用時間は毎日午後4時から10時まで。入場は無料だが、ウェブサイトでの事前登録が必要。

本イベントは日本人アーティスト・林寧彦氏とラトビア人アーティスト Aigars Bikse 氏の共同企画で、リガの2014年欧州文化首都事業を支援しているEUジャパンフェストが後援している。

### —その他—

#### ◆バスケットボール選手権「Eurobasket 2015」の共同開催地に決定

9月9日、2015年に行われるバスケットボール・ヨーロッパ選手権「EuroBasket 2015」のグループ・トーナメントの共同開催地として、ラトビア、クロアチア、ドイツ、フランスが選ばれた。同選手権はこれまでウクライナで開催される予定であったが、同国の情勢悪化により国際バスケットボール連盟が開催地の変更を命じていた。ラトビアでは2015年9月5日から10日まで、「アリーナ・リガ」で開催される。

#### ◆ラトビアの自殺率は世界で10番目

9月10日の世界自殺予防デーにちなんで疾病予防管理センターが発表したデータによると、2013年のラトビアの自殺者数は382名で、ラトビアの人口に占める自殺者数の割合は世界で10番目に高いことが明らかになった。

以上

2014年9月の主な出来事

日付	【内政】	【外交】
1日		リンケービッチ外相モルドバ訪問 神戸市長来訪（8月31日～9月3日） ビルデゴビッチ外務次官訪日（～3日）
2日		
3日		ベルズインシュ大統領エストニア訪問
4日		ベルズインシュ大統領NATOウェールズ首脳会合出席（～5日） ウシャコウス・リガ市長訪露（～6日）
5日		ストラウユマ首相の訪英（～7日）
6日		
7日		
8日		ホイヤー欧州投資銀行総裁来訪（～9日） ウシャコウス・リガ市長訪米（～11日）
9日	リエパーヤ・メタルーグス社の売却先が決定	
10日		ブルカルテール・スイス大統領来訪（～11日）
11日		リンケービッチ外相エストニア訪問（～12日）
12日		安全保障に関する「リガ会議」開催（～13日） グリアOECD事務総長来訪
13日		
14日		
15日		
16日	ツィタデレ銀行の売却先が決定	
17日		ヴィクトリア・スウェーデン皇太子殿下来訪
18日	ロシアの禁輸措置の影響を受けた企業に納税期限を延期する法案を採択	
19日		ベルズインシュ大統領のパチカン訪問（～21日）
20日		
21日		
22日		ベルズインシュ大統領の訪米（～25日）
23日	アフリカ豚コレラ感染拡大に伴う非常事態宣言の拡大・延長	
24日		トーゴとの外交関係樹立
25日		
26日		
27日		
28日		
29日		ベルズインシュ大統領ポルトガル訪問（～10月1日） リンケービッチ外相ブリュッセル訪問、EU総務理事会出席
30日		ヘニス・オランダ国防相の来訪

## ラトビア主要経済指標

ラトビアは2014年1月1日ユーロを導入した(1ユーロ≒137円)

### GDP

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	2014 Q2	出典
名目GDP	百万ユーロ	22,886	18,598	18,190	20,312	22,083	23,315	5,919	5,990	中央統計局
国民一人当たりGDP	ユーロ	10,509	8,682	8,673	9,866	10,859	11,575	2,681	2,976	中央統計局
GDP実質成長率	%	▲ 2.8	▲ 17.7	▲ 1.3	5.3	5.2	4.1	-	-	Eurostat

### 財政収支, 政府債務残高

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	2014 Q2	出典
財政収支	百万ユーロ	▲ 1,001	▲ 1,693	▲ 1,479	▲ 718	▲ 303	▲ 212	134	-	中央統計局
財政収支対GDP比	%	▲ 4.4	▲ 9.1	▲ 8.1	▲ 3.5	▲ 1.4	▲ 0.9	2.2	-	中央統計局
政府債務残高	百万ユーロ	4,534	6,870	8,096	8,527	9,013	8,873	8,993	-	中央統計局
政府債務対GDP比	%	19.8	36.9	44.5	42.0	40.8	38.1	-	-	中央統計局

### 失業率, インフレ率, 月額平均賃金

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	2014 Q2	出典
失業率	%	6.0	13.2	14.5	12.0	11.4	9.0	9.1	8.1	中央統計局
インフレ率	%	15.4	3.5	▲ 1.1	4.4	2.3	0.0	0.3	0.3	中央統計局
平均賃金(グロス)	ユーロ	682	655	633	660	685	716	754	766	中央統計局
平均賃金(ネット)	ユーロ	498	486	450	470	488	516	554	562	中央統計局

### 海外直接投資(FDI)

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	2014 Q2	出典
海外直接投資残高	百万ユーロ	8,126	8,072	8,184	9,360	10,258	11,472	11,527	11,690	中央銀行

### 貿易統計

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	2014 Q2	出典
輸出(FOB)	百万ユーロ	6,302	5,126	6,680	8,535	9,871	10,021	2,406	2,435	中央統計局
輸入(CIF)	百万ユーロ	10,711	6,701	8,412	10,983	12,512	12,635	3,007	3,036	中央統計局
貿易収支	百万ユーロ	▲ 4,409	▲ 1,575	▲ 1,732	▲ 2,448	▲ 2,641	▲ 2,614	▲ 601	▲ 601	中央統計局

### 日・ラトビア貿易(ラトビア政府統計)

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	2014 Q2	出典
日本への輸出	千ユーロ	21,870	25,035	33,634	34,792	34,615	44,091	10,186	8,470	中央統計局
日本からの輸入	千ユーロ	27,369	8,667	7,463	16,975	14,050	12,044	2,941	2,500	中央統計局
対日貿易収支	千ユーロ	▲ 5,499	16,368	26,171	17,817	20,565	32,047	7,245	5,970	中央統計局

### 日・ラトビア貿易(日本政府統計)

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	2014 Q2	出典
ラトビアへの輸出	百万円	6,693	2,043	3,458	4,050	4,908	5,054	1,074	1,375	財務省統計
ラトビアからの輸入	百万円	3,599	3,696	4,609	4,587	8,761	6,658	1,609	1,541	財務省統計
対ラトビア貿易収支	百万円	3,094	▲ 1,653	▲ 1,151	▲ 537	▲ 3,853	▲ 1,604	▲ 535	▲ 166	財務省統計

### 両国間の訪問者数

	単位	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014 Q1	2014 Q2	出典
ラトビア→日本	人	1,296	865	875	495	807	996	329	356	日本入管統計
日本→ラトビア(宿泊統計)	人	6,043	6,690	5,428	5,843	7,322	8,988	-	-	中央統計局